

令和4年度学校関係者評価委員会議事録

日付	令和5年3月24日(金曜日)	作成日	令和5年4月3日(月曜日)
時間	午後1:00～午後3:00		
場所	鹿児島鍼灸専門学校(2F)談話室		

〈会議内容〉 会議次第順次

1～2

最初に、開会の挨拶、配付資料の確認、本校では、コロナ禍の中、学内実習リモートでの講義を実施した。教授の質だけは落とさないよう心掛けた。

又、令和4年度は、新・旧混在するカリキュラ改正年度でもあり、教職員一丸となって準備を進めた。令和5年度に向け、学生に質の高い教育を目指し取り組んでいく。

3～4

続いて、本日出席の教職員評価委員の先生方の自己紹介があり、審議に入る。

5

学校の概要について、本校は開校時より、「ヒューマンケア」、人の痛みの分かる看護師の育成を目指し、学生、保護者と共に着実に歩みを進めてきた。中でも、「人間愛」、「独立自尊」、「学如不及」この3つを教育理念として、学生の意欲向上に努めてきた。令和元年から2年にかけて看護師養成所の教育課程において、第5次改正カリキュラムの方向性が示され、本校もこの改正カリキュラムに併せ、ICTの整備・多職種連携教育(IPE)の導入・シュミレーション教育等の準備を進めた。令和4年度からは、新しいカリキュラムでの教育と旧カリキュラムでの教育を受ける学生が混在する状況となる。しかし、本校では、教育の質の向上の為に、新しいカリキュラムにより近づけた教育内容を検討し、学生の学習内容に差が生じないように、準備をしてきた。令和5年度に向け、学生に、教職員一丸となって、質の高い教育の提供に努めていく。

6

学校自己評価について

6-1)令和4年度事業実績報告・令和3年度決算報告

まず最初に、令和4年度、事業実績報告に基づき説明がある。

授業については、年度初めは、感染予防対策を徹底しながら対面での授業が、

〈会議内容〉

計画通り実施できた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨地での受入れを中止する施設も出てきた。受入れ中止の領域の実習は、学内実習に変更して実習を行った。学内実習の為に日本看護教育協議会実習補完DVD,YouTube動画を授業に活用した。ICTの整備については、一昨年からオンライン授業時に活用する授業用パソコンの充実を図った。学内実習でのグループワークや、自宅待機となった学生に対し、オンライン授業の提供及びパソコンを用いた学習、貸し出し等の対応ができた。又、Googleエデュケーションの活用により、伝達事項、課題の提示・提出、授業資料の配付もメールで受け取ることができるようになった。令和4年度入学生より1台ipadを準備し、電子テキストの導入計画を立案した。入学後、テキストのダウンロード、学習教材等の使用方法の説明を実施した。

専任教員の質の向上について、令和4年度は2名の教員に研究授業の取り組みを計画し実施した。全教員の評価終了後、回収した評価表を基に教務主任・副学校長を交えてフィードバックを行い、自己の課題の明確化と次年度に向けた改善策を見いだせる機会となった。新型コロナウイルス感染症対策への取り組みでは、感染の状況に併せてその都度マニュアルの見直しを行い、学生、教職員に周知を図った。看護師国家試験対策については、11月21日より、学園を19:00迄解放、土曜日也希望者が5名以上いる場合には校舎を解放して、3年生は学習に集中して取り組んだ。又、教務主任を中心に必修問題に毎日取り組んでもらい知識を確認した。看護師国家試験合格状況、就職状況は、配付資料のとおりである。学生募集活動については、5月から県内の各高等学校を訪問し、進路指導の教諭に受験生の状況を確認、お願い、オープンキャンパスの参加を勧めて頂くように依頼した。高等学校進学ガイダンスについては、可能な限り参加し、自校のアピールを行った。今年度から、オープンキャンパスの回数を1回増やし、9月に初めてイブニングガイダンスを実施し、社会人のみでなく高校生も多数参加して下さった。又、夏以降、教職員で手分けし、2回目の学校訪問を実施し、受験を進めてもらうよう依頼した。ボランティア活動は、今年度も、久木田学園レオクラブ活動は行えていない

令和3年度決算報告について

令和3年度資金収支内訳表を基に、収入の部は、179,038(千円)、支出の部は212,163(千円)、△33,125(千円)である。理由として、新校舎建設に費やした建設費関係(短期借入金)の支出と、学生の充足率が低い事が原因だと考えられる。

〈会議内容〉

6-2) 令和4年度学校自己評価結果について

教育目標に関する評価は全体的に高い評価であった。又、教育計画の中で、単位習得に関しては、教務会議を経て柔軟な対応をしていた。教員の教育に関しては、評価平均が1.6で昨年度より低い。臨床経験の浅い教員や新入職員もおり、教員の担当科目と時間数は専門性が発揮できる配分とはいえない。教員の研修会への参加を積極的に促している。又、オンライン研修を受講するなど年間研修計画に沿って、教育の質の向上に努めた。授業の展開過程において、授業計画は立案されている。学生の理解を促す為に、学生参加型の授業になるように工夫を行っている。

目標達成の評価とフィードバックについては、それぞれの科目で評価計画を明示し、実施している。評価方法は試験による評価とポートフォリオやレポート、ワーク課題による評価もあり、それぞれ評価基準を作成し、学生に事前に提示している。

6-3) 教育目標に対する卒業時の到達度自己評価

評価結果の資料を参照すると、17項目すべての評価項目の平均値はすべて3.0以上で「あてはまる」と評価した学生が多く、おおむね到達していると評価している。

〈質疑応答〉

①電子テキストを導入活用し、授業内容はどう変わりましたか。

テキストが電子テキストになり、タブレット端末を使い、学生自身の思考が、うまくはたらなくなってきたような気がします。今は、授業の中でワークシートを使い、学生自ら中身を調べるように、教員は指導しています。

②毎年感じますが、講義する方としては、看護師国家試験合格率をアップさせる為にどこに力を入れて良いのか、逆に先生方にお伺いしたいです。

看護師国家試験出題基準の冊子がございますので、先生には次回お渡し致します。

③現代社会において、AI、ChatGPTを授業に取り入れる事がありますか

電子テキストにしろ、今後、時代の流れで、なにかしら取り入れていけないといけない部分があるかと思えます。

以上